

福井 敬

ふるさとコンサートvol.2

テノール 福井 敬(ふくい けい)

岩手県奥州市水沢出身。国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了後、1990年1994年と給費を受けイタリアで研鑽を積む。

1992年二期会「ラ・ボエーム」での鮮烈デビュー以来、数々のオペラに主演。群を抜く輝かしい声と卓越した表現力で我が国を代表するテノールとして聴衆を魅了している。近年では二期会「バルジファル」「オテロ」「ドン・カルロ」等に主演し高い評価を得ており、2016年には二期会上演史上初の「トリスタンとイゾルデ」でトリスタンを演じ絶賛された。他にも新国立劇場「ローエングリン」「トスカ」「罪と罰」、びわ湖ホール「リゴレット」「ステイプフェーリオ」、びわ湖ホール&神奈川県民ホール「タンホイザー」「オテロ」、兵庫県立芸術文化センター「トスカ」等大役を次々と演じており、とりわけ「トゥーランドット」カラフは様々なプロダクションで絶大な称賛を得ている。最近ではA.パッティストーニ指揮「アイダ」ラダメス、大植英治指揮「フィデリオ」フロレスタン、M.パスカル指揮「サムソンとデリラ」サムソンなどで変わらぬ存在感を示した。

コンサートでも国際的評価を得ており、ウィーン・フィルとの「第九」共演をはじめ、巨匠Z.メータのタクトでたびたび演奏を披露している。

CDも数多くリリースしており、本年現田茂夫指揮京都市交響楽団共演によるオペラ・アリア集をリリース予定。

また、オリジナリティ溢れるリサイタルにおいても、彼の世界観に多くの人が共感し続けている。

第65回芸術選奨文部科学大臣賞をはじめ、出光音楽賞、エクソンモービル音楽賞本賞、イタリア声楽コンコロツミラノ大賞(第1位)、芸術選奨文部大臣賞新人賞、五島記念文化賞オペラ新人賞、ジロー・オペラ新人賞及びオペラ賞等多数受賞。

国立音楽大学教授。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員。

Kei FUKUI



Aki MATSUI

ソプラノ

松井 亜希(まつい あき)

岩手県奥州市水沢出身。岩手県立不来方高等学校普通科芸術学系音楽コース・東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程・博士課程修了。大学院ではアーランクの歌曲作品を研究し、博士号を取得。アカンサス音楽賞、同声会賞、三菱地所賞受賞。同声会新人演奏会、読売新人演奏会出演。在学中、日仏声楽コンクール優勝、日本ドイツリートコンクール優勝・文部科学大臣奨励賞・日本R.シュトラウス協会賞受賞、日本音楽コンクール(歌曲部門)入選。日本演奏連盟のリサイタル・シリーズに出演し、音楽誌上で「清純な詩情に溢れた透明感ある歌唱」と評される。バロックから現代音楽まで多様な作品を演奏するアンサンブル・ジュネシス(鈴木優人主宰)のメンバーとしてヴィヴァルディやヒンデミット、フェルドマン、新垣隆氏の新作を演奏。

大学卒業後はバッハやヘンデル等バロック時代の作品を主に演奏するバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ・鈴木雅明主宰)のソリストおよびアンサンブルメンバーとして国内外の公演や録音に数多く参加。プレーメン音楽祭、ラインガウ音楽祭、ライプツィヒ・バッハ音楽祭ではソリストを、また、カナリア諸島音楽祭や、モンテヴェルディのオペラ《ポッペアの戴冠》(新国立劇場)では急遽代役を務め喝采を浴びた。

昨年3月に行われたBCJヨーロッパツアーは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、ツアー途中で中止を余儀なくされたが、滞在先のドイツ・ケルンよりバッハ作曲《ヨハネ受難曲》が全世界ライブ配信された。その際、ソプラノソリストが帰国せざるを得ない事態が発生したが、凄まじい集中力と歌唱力で代役を務めあげた。昨年以降、来日困難となったアーティストの代役を数多く務め、成長著しい歌手である。

東京藝術大学非常勤講師。



水沢高等学校音楽部

こんにちは、水沢高等学校音楽部です。私たちは「心に響くハーモニー」をモットーに日々練習に励んでおります。

昨年はコロナ禍により、ほとんどの大会や行事が中止となりました。そのような状況の中で7月、多くの方々のお力添えをいただき、「第61回定期演奏会」を開催できたことは大変貴重な経験となりました。その様子は地元水沢テレビで番組として放送されました。

さらに、胆江日日新聞・NHK「おぼんです岩手」でも取り上げられ、水沢高校音楽部を多くの方々に知っていただく機会にもなりました。

本日は、私たちが尊敬する本校OBである福井敬さんのステージに立てる喜びと感謝の気持ちを胸に、聴いてくださる方へ心をこめて精一杯演奏いたします。



Zホール児童合唱団

Zホール児童合唱団は、学校活動とは違う子どもたちの自己発現の機会となること、また、合唱をとおして豊かな感受性、創造性、表現力を育み、音楽を愛する子どもたちを育てること、そしてZホールを活動基盤とする青少年の文化活動の拠り所となることを目指して、平成28年10月から活動を始めました。

これまでに、平成29年度にオペラ「ラ・ボエーム」、令和元年に福井敬ふるさとコンサートvol.1に出演するなど、たくさんの方の歌う機会を得てきました。

令和2年度は、コロナ禍により活動することができない期間もありましたが、マスクをしながら練習するなど感染対策をしっかりとこない、歌う楽しさをいつも以上に感じながら活動しています。



Etsuko TANIIKE

ピアニスト

谷池 重紬子(たにいけ えつこ)

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業。

卒業後、二期会のピアニストとなり伴奏者としてのキャリアをスタートさせ、第一線で活躍している歌手たちのリサイタル、合唱伴奏などで活躍。

1994年からはイタリアにおいて講習会の伴奏者を務め、1998年文化庁芸術家在外研修員としてミラノにて研修を積み、新国立劇場オペラ研修所、東京音楽大学大学院では伴奏者兼コレペティとして、明日の日本オペラ界を担う若手音楽家達を支えている。

演奏会に於いては、豊かな音楽性と卓越したテクニックで盛り上げ、ピアノ1台での見事なオーケストレーション、ドラマティックな音楽作りで聴衆を魅了。歌手の良き理解者、良きパートナーとして、絶対的な信頼を寄せられているピアニストである。